環境調査　宿毛湾35
令和7年3月26日
宿毛漁業指導所

環境調査結果のお知らせ

概況

本日、環境調査を行いましたので結果を送付いたします。

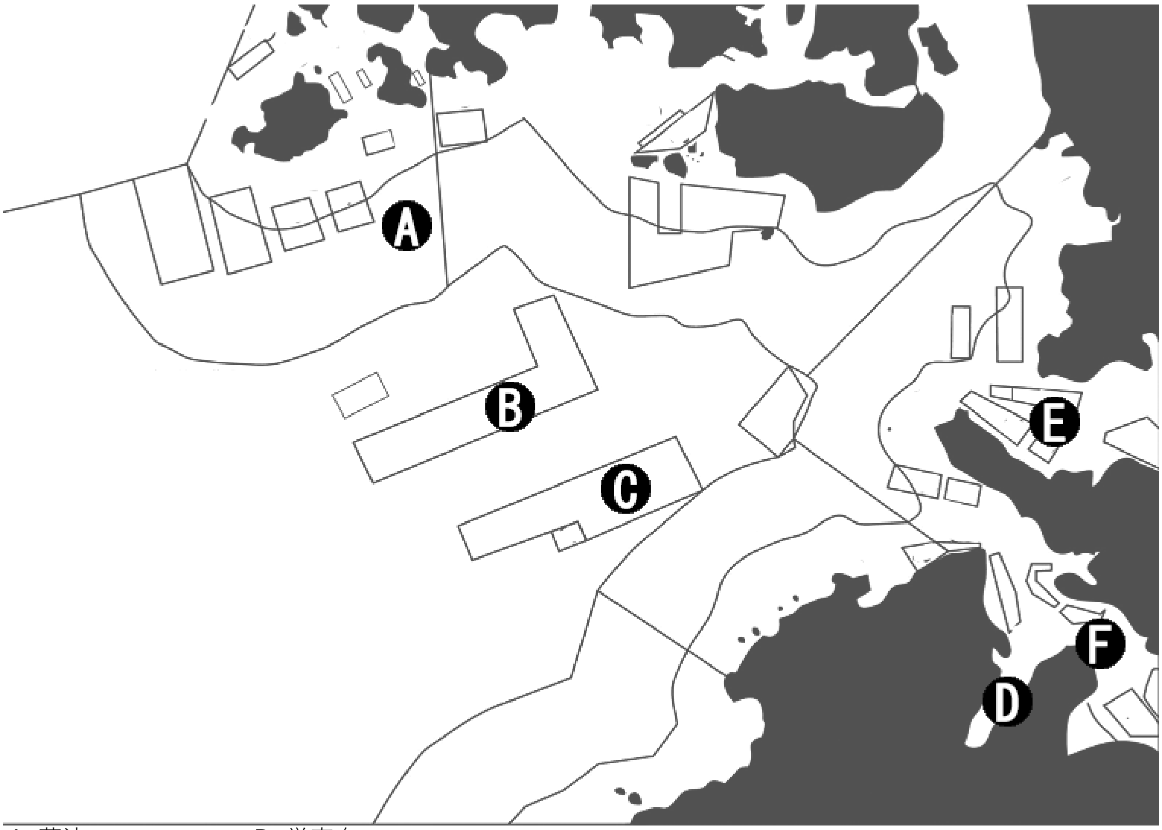
検鏡の結果、麻痺性貝毒原因プランクトンであるアレキサンドリウム属が最大２細胞/ml、赤潮原因プランクトンであるメソディニウム・ルブラムが最大６細胞/ml確認されました。また、柱状採水（0～10mの海水をひとまとめに採水）した海水においても、アレキサンドリウム属が藻津で0.05細胞/ml、大島中央で0.01細胞/ml、小筑紫中央で0.01細胞/ml確認されました。当該プランクトンは、主に二枚貝（食用を含む）を毒化させる恐れがあるので十分注意してください。

今後、飼育魚や海色等に異常が確認された場合は、海水をペットボトル等で採集し、漁協もしくは宿毛漁業指導所にご連絡下さい。

調査点（透明度/水深）【調査時刻】	海洋環境				プランクトン		
	深度（m）	水温（℃）	塩分	溶存酸素（mg/L）	コクロディニウム・ポリクリコイデス	メソディニウム・ルブラム	アレキサンドリウム属
A 藻津 (-/36.3m)【09:14】	0	18.3	34.4	7.3	0	1	0
	5	18.2	34.6	7.1	0	0	0
	★ 10	18.1	34.7	7.2	0	1	0
	15	18.1	34.7	7.2	-	-	-
	20	17.9	34.7	7.0	-	-	-
B 大島中央 (-/30.4m)【09:27】	0	18.4	34.7	7.3	0	1	0
	5	18.2	34.7	7.2	0	0	0
	10	18.2	34.7	7.2	0	0	0
	15	18.0	34.7	7.3	-	-	-
	★ 19	18.0	34.7	7.3	0	0	0
	20	18.0	34.7	7.3	-	-	-
C 小筑紫中央 (-/49.6m)【09:37】	0	18.8	34.7	7.3	0	0	0
	★ 5	18.4	34.7	7.3	0	0	0
	10	18.4	34.7	7.4	0	0	0
	15	18.3	34.7	7.3	-	-	-
	20	18.1	34.7	7.2	-	-	-
D 栄喜奥 (-/13.7m)【09:55】	0	18.7	34.5	7.6	0	0	0
	5	18.5	34.7	7.5	0	0	2
	★ 8	18.5	34.7	7.5	0	5	0
	10	18.5	34.6	7.5	0	6	0
E ヒロウラ (-/25.3m)【10:18】	0	18.4	34.3	7.4	0	0	1
	5	18.5	34.6	7.3	0	1	0
	★ 10	18.5	34.7	7.4	0	2	0
	15	18.3	34.6	7.4	-	-	-
	20	18.2	34.6	7.4	-	-	-
F 青瀬山 (-/16m)【10:05】	0	18.3	34.1	7.4	0	0	0
	★ 5	18.4	34.6	7.5	0	3	0
	10	18.3	34.6	7.5	0	2	0
	15	18.2	34.6	7.4	-	-	-

クロロフィル量が極大の深度および、0m、5m、10mの深度から採水した海水の検鏡を実施しています。
★：採水したサンプルの内クロロフィルが極大であったもの
プランクトンの細胞密度について、小数点第2位まで記載のあるものは、海水100mLを濃縮して検鏡しています。
こちらの「環境調査」は、高知マリンイノベーション情報発信システム「NABRAS」(URL：https://kmi-nabras.pref.kochi.lg.jp)においてもご覧いただけます。

環境調査　宿毛湾35
令和7年3月26日
宿毛漁業指導所



A: 藻津　D: 栄喜奥
B: 大島中央　E: ヒロウラ
C: 小筑紫中央　F: 青瀬山

参考：有害プランクトンの種類と注意及び警戒基準

有害プランクトン	被害	注意基準（※1）	警戒基準（※2）	主な赤潮発生時期　※3		
				浦ノ内湾	野見湾	宿毛湾
Karenia mikimotoi（カレニア・ミキモトイ）	魚類等のへい死	100 cells/mL	1,000 cells/mL	5～8月	6～8月	―
Chattonella spp.（シャットネラ属）	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	6～8月	―	―
Cochlodinium polykrikoides（コクロディニウム・ポリクリコイデス）	魚類等のへい死	10 cells/mL	100 cells/mL	―	2～4月	5～6月
Heterosigma akashiwo（ヘテロシグマ・アカシオ）	魚類等のへい死	5,000 cells/mL	50,000 cells/mL	3～12月	4～8月	4～11月
Dictyocha spp.（ディクチオカ属）	魚類等のへい死	―	5,000 cells/mL	6～7月	4月	―
Takayama spp.（タカヤマ属）	魚類等のへい死	―	10,000 cells/mL	8～9月	―	―
Heterocapsa circularisquama（ヘテロカプサ・サーキュラリスカーマ）	二枚貝のへい死	―	500 cells/mL	8～11月	―	―
Alexandrium spp.（アレキサンドリウム属）	二枚貝の毒化	10 cells/mL	100 cells/mL	―	1～4月	3～5月
Gymnodinium catenatum（ギムノディニウム・カテナータム）	二枚貝の毒化	―	1 cell/mL	―	―	2～7月

※1 注意基準：餌食いの悪化、警戒基準に達する恐れのある密度
※2 警戒基準：**魚類及び二枚貝のへい死** 並びに **二枚貝の毒化**が想定される密度
※3 あくまで目安なので、水産試験場・漁業指導所の広報や養殖魚の状態に応じて、慎重な養殖管理をお願いします。